

公立学校における教育DXについて

【概要】

1. 国の動向
2. 滋賀県の実教育DXの取組
3. 成果と課題、今後に向けて

滋賀県教育委員会

1 国の動向

(1) 教育DXとは

デジタル技術やデータを活用して教育現場や学習方法そのものを変革し、個別最適・協働的な学びや教員の働き方改革を実現する取組

【ミッション】

誰もが、いつでもどこからでも、だれとでも、自分らしく学べる社会

(2) 教育DX関係施策

- I. デジタル化による教職員の負担軽減
- II. 多様な学びのための学習環境の整備
- III. データによる学習者の自己理解・教師の見取りの充実
- IV. 生涯を通じて学びのデータを活かせる環境の整備

デジタルにより個別最適な学び・協働的な学びを一体的に充実

2 滋賀県の教育DXの取組

(1) 主な計画

【滋賀学校教育情報化推進計画（第2期）】

1 計画策定の主なポイント

- ・生成AI、データサイエンスに係る施策を追加・拡充する。
- ・情報モラル教育の施策を強化する。

2 施策の4つの柱

- 柱Ⅰ．児童生徒の情報活用能力の育成
- 柱Ⅱ．教職員のICT活用指導力の向上
- 柱Ⅲ．ICTを活用するための環境の整備
- 柱Ⅳ．ICT推進体制の整備と人材の確保

【学校における働き方改革取組計画】

1 計画策定の主なポイント

- ・「子どもも教職員も笑顔あふれる学校」を目指す。

2 施策の3つの柱

- 柱Ⅰ．子どもと向き合う時間に専念できる職場づくり
- 柱Ⅱ．業務の削減・効率化
- 柱Ⅲ．働きやすさの確保



2 滋賀県の教育DXの取組

(2) 学校現場の実践【小学校】 《協働的な学び》

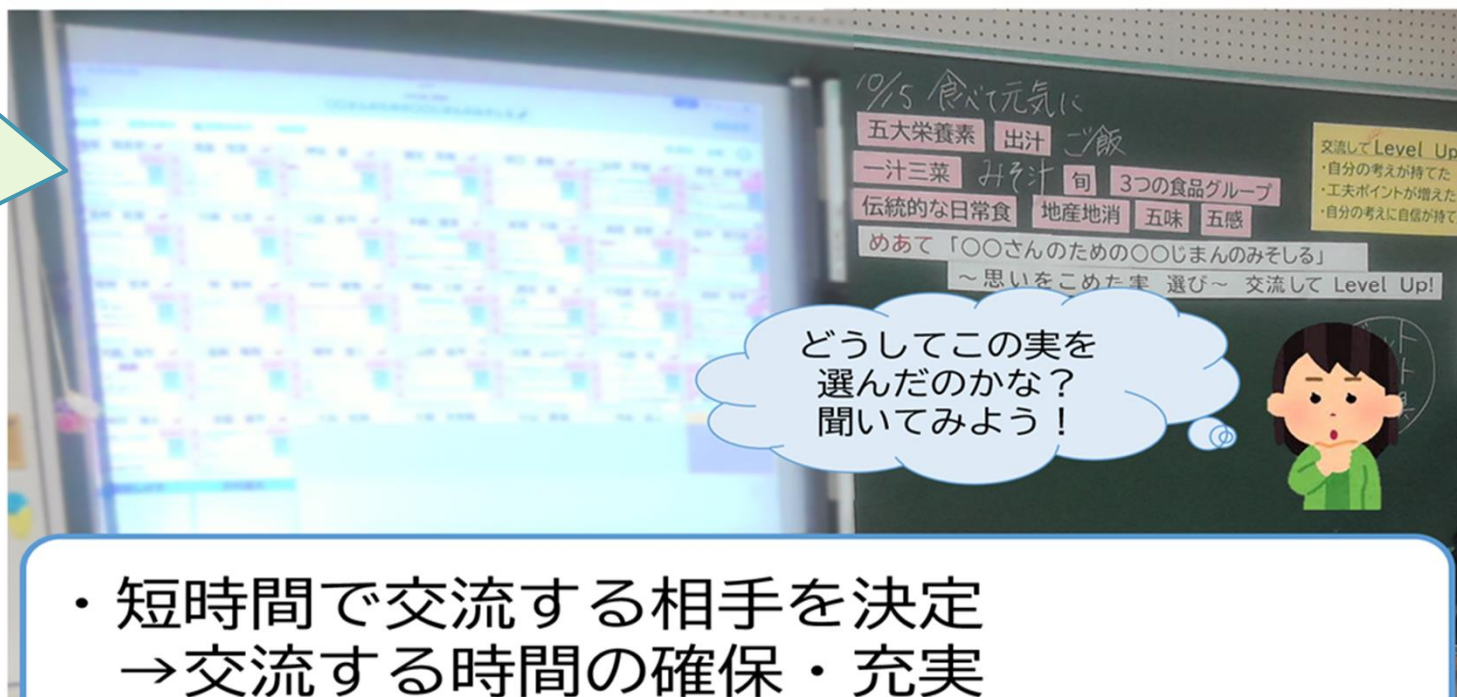


小 家庭

ICTの効果的な活用

学級全員の考えを一覧できる

一人ひとりの
・氏名
・みそ汁の実
・理由
・工夫したことが
一覧できる



・ 短時間で交流する相手を決定
→ 交流する時間の確保・充実

- ・ 端末を使うことで、一人ひとりが考えたみそ汁の実や選んだ理由、工夫などを一覧することが可能となり、短時間で意見交換の相手を見つけることができた。
- ・ 意見交換では、似た工夫をしている友達の理由を知って納得したり、新しい視点に気付いて実の組み合わせを工夫したりする児童の姿が見られた。

2 滋賀県の教育DXの取組

(2) 学校現場の実践【中学校】 《個別最適な学び》



中 外国語

ICTの効果的な活用

繰り返し音声を聞くことができる



・発音の仕方が分からない語句等を何度も聞いて確認
・自分にあった機能で練習することで発音が定着

- 端末を使うことで、生徒自身が発音できない表現を繰り返し聞いたり、音声スピードを変えたり、自分のペースで練習することが可能となった。
- 一人ひとりが自分のペースで、聞いたり読んだりを練習することで、つまることなく声を出して読むことができるようになった。

2 滋賀県の教育DXの取組

(2) 学校現場の実践【高等学校】

《個別最適な学び》

A高校	内容
活用状況	- 芸術科や保健体育科の授業では、録音・録画機能を活用し、生徒が<u>自らの表現や動作を客観的に振り返る取組</u>を実施 - 英語科の授業では、音声教材の個別視聴や課題配信、振り返り活動に端末を活用し、<u>生徒の習熟度に応じた繰り返し学習が可能</u>となった
成果	- 保健体育科では<u>動作分析や作戦検討を通して、課題発見・解決のプロセスを体験的に学び、技能の向上や気づきの促進につなげた</u> - 生徒一人ひとりの状況に応じた柔軟な学びの実現が進んだ

《協働的な学び》

B高校	内容
活用状況	地歴科では、授業支援ソフトを活用し、各単元の<u>振り返り課題を提出・共有</u>
成果	<u>他の意見を見ることで、自分の考えを見直す機会</u>となった。 <u>全員の回答を基により良い解答を作り上げる</u>活動を行い、協働的な学びが深まった。

2 滋賀県の教育DXの取組

(2) 学校現場の実践【特別支援学校】 《協働的な学び》

情報の授業

令和7年度 ICT機器を活用した授業実践報告用紙

教科名：情報

単元名：考えよう！情報社会と私たち

ねらい（めあて）

- ・ SNSに対する正しい知識やマナーを身につける。
- ・ 安全かつ適切に情報を活用するために必要な考え方や態度を育む。

授業時の様子



授業支援ソフト



一人ひとりが
考えた
問題点が記載
されている

- ・ SNSを通じたトラブル事例の漫画や動画を視聴し、問題点を考えた。
- ・ 端末を使い、①リアルタイムでの意見交流、②カテゴリーごとの情報整理、③アンケートの実施などができた。
- ・ 普段の(SNSの)使い方を振り返るきっかけになった生徒の姿が見られた。
- ・ 友だちの意見を聞いて、新たな考え方や価値観に気づけた生徒の姿が見られた。

2 滋賀県の教育DXの取組

(3) 生成A Iを活用した取組

《授業利用》

○栗東市立栗東中学校 【R07_パナソニック教育財団研究助成表彰校(奨励賞)】

【研究課題】

自分の考えを論理的に説明し、議論を活発に行える生徒の育成

～生成A Iを活用した特別活動の充実～

【活動内容】

学級会での課題解決の話し合いにおいて、

- ・ 生成A Iを思考支援ツールとして位置付け、根拠に基づく論理的な意見を述べる力を育成
- ・ 客観的な評価のため、生徒の意見を「理由に説得力があるか」「理由に具体性があるか」の観点から評価するシステムを生成A Iを使って構築
- ・ 学級会後に生成A Iに意見を評価させる「振り返り重視」と、学級会前に生成A Iに意見を評価させる「準備重視」の、2つのクラスを比較して変容を捉え、活動の効果を検証

2 滋賀県の教育DXの取組

(3) 生成A I を活用した取組

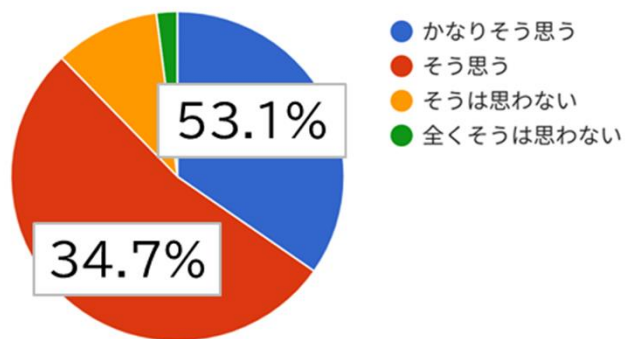
《授業利用》

○河瀬高等学校

1、2年生の「総合的な探究の時間」において、生成A I を使ったDX講座を実施

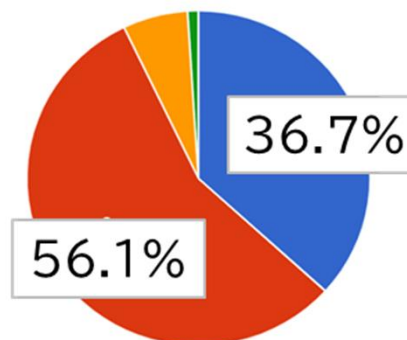
AIとの対話を通して、自分の考えが整理された。

98 件の回答



今日学んだことは今後の生活でも役立つと思う。

98 件の回答



《校務利用》 文部科学省【リーディングDXスクール】

○湖南省立三雲小学校

毎週月・水の職員打合せ後に実施しているICT機器操作研修の中で、生成A I の活用体験を実施



○湖南省立甲西中学校

校務へ生成A I を利用(作文や翻訳、プレゼンテーション作成など)
教職員も便利さを実感



2 滋賀県の教育DXの取組

(4) 情報モラル教育の課題と取組

①課題

【児童生徒】

- ・個人情報保護や著作権への理解
- ・SNSやネット上の言動と法的責任への理解
- ・生成A Iの可能性とリスクの理解 など

【教職員】

- ・個人情報保護や著作権への理解と指導力の向上
- ・SNS・メディアリテラシー指導力の向上
- ・生成A Iの可能性とリスクの理解と指導力の向上 など

②取組

【児童生徒】

- ・スマホネット安全教室等の実施
- ・文部科学省「情報モラル教育ポータルサイト」の授業での動画視聴

【教職員】

- ・総合教育センターにおける教職員向けの研修の実施

3 成果と課題、今後に向けて

(1) 成果

- 1人1台端末が導入され個別学習や協働学習が可能となり、効果的な活用により児童生徒の変容が見られた。

(2) 課題

- 児童生徒と教職員の生成A Iの特性の理解および児童の利用制限
- 1人1台端末の効果的な活用の好事例の横展開

(3) 今後に向けて

- 市町立の小中学校における1人1台端末の効果的な活用の好事例を収集し、幼小中教育課特設サイトや、協議会、研修会等で発信
- 国のガイドラインを踏まえた、児童生徒と教職員の生成A Iの特性の理解の促進



今後とも、デジタルにより個別最適な学び・協働的な学びを一体的に充実していくため、教育DXを計画的に推進していく。